



## ご 挨拶



第34回日本小児歯科学会九州地方会大会および総会

大会長 井上 浩一郎

(いのうえ小児歯科 院長)

「日本のひなた宮崎県」へようこそ。

本年4月に東九州自動車道でようやく北九州と宮崎が結ばれましたが、まだまだ交通インフラが脆弱で、「陸の孤島」と呼ばれておりますこの地へお越しいただき、心より歓迎致します。また、今更ながらですが、先の熊本地震にて被災された方々へ本当にお見舞い申し上げます。

宮崎では、かねてより「南海トラフ」「日向灘地震」をキーワードに、災害対策についていろいろ語られてきましたが、まさか熊本にてあのような地震が起こるなんて…更に相次ぐ余震、宮崎でも幾度となく揺れを感じましたが、非常に気持ちの悪い日々でした。ましてや、熊本にて体験された方へのストレスたるや、計り知れません。そんな熊本を、九州の皆で応援しようというメッセージを本大会のポスターとチラシにイラストとして掲載させていただきました。

さて、今回の地方会ですが、担当の鹿児島大学の山崎要一教授のご厚意により、宮崎にて開催することとなりまして、振り返れば、ちょうど20年前の第14回大会をこの宮崎の地にて行っております。当時、鹿児島大学小児歯科の一医局員だった私は、とりあえず言われるまま準備に携わり、何が印象に残っているかという、大会ではなく、今は閉鎖されてしまいました「世界最大の室内ウォーターパーク」と称されたオーシャンドームでの懇親会のことです。当時、準備に協力していただいた宮崎の開業医の先生方は、ほとんどが現在も残られており、今回の学会へのサポートに関わっていただきました。あの当時から今でも中心となって宮崎をとりまとめている旭爪伸二先生に感謝しております。

宮崎での開催が決定し、「宮崎からこどもの未来につなごう！ ～いま、小児歯科に求められるもの～」をメインテーマと決めたところで、あいうべ体操でお馴染みの今井一彰先生、その機能の評価に今後欠かせなくなると思われるりっぷくんの齊藤一誠先生、世の中が2025年問題による超高齢社会を迎えるにあたり在宅医療にスポットが当たる中、摂食嚥下についての田村文誉先生、ちょっと違う目線から、小児の在宅医療を考えようと、鹿児島と宮崎の現状について知るべく、渡邊理恵先生、西国領俊子先生、澤田一美先生、の講師が決まりました。そして、宮崎からの発信にこだわったのが、糖尿病専門医の西田互先生です。宮崎市が毎月発行している一般市民向けの広報誌に、「糖尿病のウソ？ホント？」という見出しで、特集が掲載され、そのQ&Aに「Q1.宮崎県には糖尿病の人が多くなってホント？→A.ホント；宮崎県の糖尿病患者数は全国で男性第11位、女性は第3位～」「Q3.子どもや若い人は糖尿病にならないってホント？→A.ウソ；若いからといって安心はできません。宮崎県は『お菓子の購入率』全国第1位で、10歳女子の肥満率は全国第1位、男子は第2位～」(市広報みやざき10月号2015年より)と宮崎市民へ告知されました。かねてより糖尿病と歯周病について話題となり、宮崎市では、行政と歯科医師会により一般市民を対象とした「ふしめ健診」と言われる宮崎市歯科健診(歯のクリーニング大作戦)の検査項目に血糖値測定が導入されました。この規模で行われる歯科医院での血糖値測定は、この春より、全国に先駆けて始まりました。これにより、医科歯科連携がさらに進められることとなりそうです。その成人の糖尿病におおいに影響を与えるであろう、小児期の生活習慣への対応は、今後ますます求められることになるのではと感じております。今回の発信が、そのきっかけになっていただけることを切に願って企画させていただきました。

参加された皆様は、きっとおなかいっぱいになっていただけるものと期待しております。本当に、ご参加いただき、ありがとうございます。